

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 避難場所の耐震化率について

新聞等でご存知の方も多いのではないかと思います。最近、県から19市町の避難場所の耐震化率について公表がありました。調査時点は昨年3月末現在です。県と市町を併せた県全体の耐震化率は70.2%で、全国平均の79.3%を下回り、全国42位でした。

一方、県下19市町では、本市は81.8%で3位。13市中では1位でした。お陰さまで本市では市民の防災への関心が高く、市内に343ある自治会にできた自主防災組織を構成する世帯数も全体の90%を超えています。また、防災に関する講演や自主訓練も繰り返されています。13市中1位になれたのは、そうした市民の防災への気運の高まりに強く影響されたためであるように思われますが、みなさん、いかがお考えですか。

■ 男女平等ランキングについて

スイスの団体「世界経済フォーラム」がまとめた男女格差報告2012年版によると、調査対象135か国中、男女が平等かどうかのランキングで日本は世界101位だったそうです。毎年、こんな調子だとも言われています。ランキングは政治、経済、健康、教育の4分野14項目で評価されますが、女性議員数の割合では102位。25歳から39歳の女性が働いている

割合は日本が欧米より目立って低いとされています。子育ての負担が女性に偏り、保育所などの支援の不十分さも原因の一つであるように指摘されています。

わが国の現状では考えにくいことですが、デンマークでは、国会議員候補の4割を女性にするよう各政党が1970年代から自主規制を行っているとか、ノルウェーでは、企業の株式上場の条件として取締役会の原則4割が女性であることが必要であるとか、フランスでは、閣僚の半数を女性が占めているとか…。別世界の話のように聞こえませんか。

確かに、男と女では視点やアイデアが違うことが多いので、混ざり合うことで視点やアイデアが多様化します。男女共同参画を推進することの必要性は、この多様化こそが、間違いなく社会発展の有用なステップになるからだと、男女平等推進論者は強調しますが、みなさんのご意見はいかがですか。

